

平成16年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	32	学校名	茨城県立佐和高等学校				課程	全日制 (普通科)		学校長名	島根早苗					
教頭名	林和男								事務(室)長名	竹内品江						
教職員数	教諭	40	養護教諭	1	常勤講師	0	非常勤講師	2	実習教諭, 実習講師, 実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	2	計	52
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数				
	普通科	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
714	普通科	106	135	86	153	89	145			281	433	18				

2 目指す学校像

- (1) 生徒一人ひとりの学力向上と進路希望の達成を目指して、教職員が一致協力して創意・工夫し、活力に富む学校づくりを目指す。
- (2) 生徒指導及び安全教育の徹底を目指すとともに、体験活動、ボランティア活動を積極的に推進し、「心の教育の充実」を図る。
- (3) 特別活動の充実や、部活動の活性化を推進し、たくましい心と自主性に富む生徒を育てる。
- (4) 基礎的・基本的な内容の着実な定着を図り、確かな学力を育成するとともに、生徒が自ら、進路に向けて真剣に取り組める指導体制を確立する。
- (5) 家庭や、地域社会と連携して、自他を敬愛し、協調と連帯の精神に富む生徒を育てる。

3 現状分析と課題(数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
教務	新教育課程に対応して、生徒の進路希望や学習に対する興味や関心を大切に教育課程の編成に努めている。3学年では、生徒の進路希望の実現を期して多くの選択教科・科目を設定しており、生徒の希望をできるだけ生かそうとしている。 学校行事の精選により、授業時間の確保と学力の向上に努めている。	・クラス編成の枠組みをつくる際に、生徒の希望する選択教科・科目に偏りがある場合、どのようにしたらバランス良くクラス編成を行えるか。 ・各行事にかかる時間が十分確保できない場合もあり、精選の基準をどこに置くか。
学習指導	大多数の生徒は大学進学を志望しているため、全学年を対象にほぼ毎日課外を実施している。また、長期休業中も通常の課外に加え、外部から講師を招聘した「学習セミナー」を定期的開催し、大学受験に対応できる学力が身に付くように努めている。 生徒の多くは学習意欲はあるが、家庭学習の時間は十分とはいえない。	・自分の適性や目指す進路を真剣に考え、準備のために学習に取り組むためにはどのような方策をたてたらよいか。 ・学習時間の確保ができるように、進路指導・学習指導部・学年・教科が連携して一人ひとりの学習状況を正確に把握し、適切な手だてをどう進めるか。
進路指導	生徒の進路希望の実現を期して、一人ひとりにきめ細かな進路指導を進めている。本年3月に卒業した生徒の大学希望者の達成率は80%(114人)に上る。一人でも多くの合格者を出すべく、学習指導部や学年との連携を密にするとともに、的確かつ豊富な進路情報を生徒に提供している。	・早期に希望進路を決定し、目標に向けて準備ができる体制をいかにつくれるか。 ・生徒が「進路の手引」や各種の進路情報を的確にとらえ、希望進路の決定に役立てられるようにするにはどのような手だてが必要か。
生徒指導	多くの生徒は挨拶がきちんとできる。服装や頭髪についても、大きく逸脱した生徒は見られないものの、自らたやすく気持ちを持つまでにはいたっていない。県の「さわやかマナーアップ事業」を受け、職員全員の意識の統一を図るとともに、PTAや地域の協力も得ながら、本年度のテーマ「制服をきちんと着よう」について実現させるべく努力をしている。	・マナーの向上を図るために生徒の内面に訴える手だてをどのように工夫して進めるか。また、生徒会やLHR活動、保護者などどのように連携したら目標が達せられるか。
特別活動	部活動への参加率は約60%で、多くの生徒が毎日熱心に練習に励んでいる。 心の教育の一環として、生徒のボランティア活動への参加を積極的に進めており、学校内外で参加する生徒も少なくない。本年度は、全校ボランティアデーを設け、全生徒参加してのボランティア体験を行う予定。	・生徒が目的意識をもち、意欲ある学校生活を送るために、さらに部活動への参加率を高める方策を立てる必要がある。 ・ボランティア活動を特色ある学校づくりの一つに位置付け、参加率の向上や、活動をとおして心の教育を確かなものにするための取り組みをどう推進するか。

4 中期的目標

- 1 生徒一人ひとりの学力向上と意欲的な学習を促すために、生徒の実態や進路希望を考慮した教育課程の編成をする。
- 2 心の教育の充実を図るために、ボランティア活動を本校の特色として位置付け、計画的かつ継続的に実施できるような指導体制や外部との協力体制を築く。
- 3 部活動への参加率をさらに引き上げ、感動と自律の心を養う教育を推進する。
- 4 希望進路を実現させるために、進路指導部、学習指導部及び学年が有機的に連携して課外や、進路ガイダンス、進路相談などの充実を図る。
- 5 P T A活動をさらに活性化するとともに、地域社会と一層連携を深め、生徒の社会性や協調心を育むことをめざす。

5 年次ごとの重点目標

年次	重点目標	具体的目標	達成状況
1年次	<p>生徒一人ひとりの学力について正確に把握し、適切な学習方法を導き出し、きめ細かな指導を実施する。基本的な生活習慣の確立と豊かな心を育むための方策を立て実践する。</p> <p>部活動や委員会活動などへの参加率を前年度よりさらに高めるとともに、生き甲斐とたくましい精神が持てるような行事を実施する。進路指導部、学習指導部及び学年が有機的に連携して3年間を見通した進路指導を進める。目標に向けて自ら学ぶ姿勢を身に付けさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科について、前年度の比較やシラバスの作成をとおして、教科指導方法の改善・充実を図る。併せてコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に学習に生かせるよう努める。 ・遅刻、欠席、早退をできるだけ少なくする。自ら目標を持って高校生活を送れるよう、目的意識を持たせる。 ・心の教育の充実を目指して全クラスにおいてボランティア活動と体験活動を実施する。 ・生徒の自主性が育つように、文化祭やクラスマッチの企画・運営をできるだけ生徒に委ねるとともに、協調と連帯の精神を養うことのできる行事の設定をする。併せて創立20年記念事業の式典等に生徒が積極的に参加できるように配慮する。 ・進路に関する行事（ガイダンス、見学会、講話など）について有機的なつながりを考え、進路意識の高揚や、目的に向けての指導や面接練習について全職員体制で臨むようにする。 ・学習シラバスを活用して、生徒が自分の実力を見極めながら自ら学ぶことができるような指導方法の工夫をする。 	
2年次	<p>進路について主体的に考え、目標に向かって計画的に自ら学習する態度を育てる。</p> <p>生徒が服装や髪型について自らただす態度を養う。</p> <p>総合的な学習の時間と教科等の関連を図りながら人権教育・国際理解教育を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が進路達成に必要な課外や、模試に進んで参加するための姿勢や、目的意識が持てる指導の工夫をする。進路希望先についてコンピュータや情報通信ネットワークを活用して自ら調べられる態度を養う。 ・生徒自身が服装や髪型、基本的な生活習慣について、ホームルーム活動等をおして自らを律する態度の養成を図る。 ・様々な体験的活動や、資料の活用をとおして人権尊重、国際理解に資する指導を積極的に進める。 	
3年次	<p>生徒の多様化を踏まえ、生徒一人ひとりが主体的に学習できる指導方法の改善と充実</p> <p>自分の希望進路の実現に向けて自ら工夫努力をするような進路指導の推進と具体的な援助を実施する。</p> <p>地域社会との連携を図り、社会の一員として生きる心の育成を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間を核に、生徒が自ら課題を見つけ、目的意識を持って学習に取り組めるような指導方法の工夫。 ・進路希望を達成するために、生徒自らが目標を明確にし、インターンシップをさらに推し進めるとともに、進路の手引きや、「進路の手引き」の徹底活用ができるようするなど、継続的な進路啓発活動の実施を図る。 ・地域に根ざした題材の選定や、地域の人材を活用して、多様な学習の場を設定し、活力ある学校づくりに役立てるとともに、地域との連携を深める工夫をする。 	